

週の初めから春秋時代にかけての詩、三百五篇を集めたもので、孔子が編纂したと言われている。司馬遷の『史記』によれば孔子は学ぶべき古典として『易』『書』『礼』『春秋』を編纂したが、それとともに、それまで採詩の官が諸国を廻り集めた三千余篇の詩の中から三百五篇を選び、弦に合わせて歌えるようにしたという。これが今日のいわゆる『詩経』である。すなわち『詩経』は中国最古の詩集であつて、それは黄河流域を中心として生まれた北方の文学なのである。

桃夭 無名氏

桃之夭夭^{えうたう} 灼灼^{タリ}其華^ハ
之子^コ于歸^グ 宜^{ようシ}其室^シ家^ニ
桃之夭夭^{タル} 有^リ其實^{ふんタル}
之子^キ于歸^グ 宜^{シカラン}其家^ニ室^ニ
桃之夭夭^{タル} 其葉^{しん}蓁蓁^{しんタリ}
之子^キ于歸^グ 宜^{シカラン}其家人^ニ

夭夭 若々しいさま。
灼灼 花が盛んに咲くさま。
宜 うまくやつていくだろう。
室家・家室 嫁ぎ先の家。
蓁 実のはち切れそうなさま。また実の多いこと。
蓁蓁 葉が盛んに茂るさま。
家人 嫁ぎ先の家の人々。

問1 詩の形式を答えよ。

問2 古詩では途中で韻を変える「^{かんいん}換韻」ということが行われる。前の詩で韻を踏んでいる字を○で囲め。

問3 『詩経』では、自然の事物を歌うことで人事にかかわることを想起させる隱喩法（「興」）が用いられる。この詩の桃の若木とはいつたい何の隱喩か。

問4 ア「灼灼其華」・イ「有蓁其實」・ウ「其葉蓁蓁」はそれぞれどのような人事を暗示しているか。

ア イ ウ

【現代語訳】

桃の木は若々しくつややかに 美しく咲き誇るその花
（桃の木のように美しい）この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやつていくことだろう
桃の木は若々しくつややかに たわわに大きな実をつけた
（桃の木のように美しい）この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやつていくことだろう
桃の木は若々しくつややかに 盛んに生い茂つたその葉
（桃の木のように美しい）この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやつていくことだろう

配付日 10月24日

漢詩読解1、古詩『詩経』、比喩を読み取る

周の初めから春秋時代にかけての詩、三百五篇を集めたもので、孔子が編纂したと言われている。司馬遷の『史記』によれば孔子は学ぶべき古典として『易』『書』『礼』『春秋』を編纂したが、それとともに、それまで採詩の官が諸国を廻り集めた三千余篇の詩の中から三百五篇を選び、弦に合わせて歌えるようにしたという。これが今日のいわゆる『詩経』である。すなわち『詩経』は中国最古の詩集であって、それは黄河流域を中心として生まれた北方の文学なのである。

桃夭 無名氏

桃之夭夭 灼灼其華
之子于歸 宜其室家
桃之夭夭 有其實
之子于歸 宜其家室
桃之夭夭 其葉蓁蓁
之子于歸 宜其家人

夭夭 若々しいさま。
灼灼 花が盛んに咲くさま。
宜 うまくやていくだろう。
室家 家室 嫁ぎ先の家。
實 実のはち切れそうなさま。また実の多いこと。
蓁蓁 葉が盛んに茂るさま。
家人 嫁ぎ先の家の人々。

詩経の表現
賦 直叙
比 直喩
興 自然人事

結婚を寿ぐ歌。
祖矢の功徳もたまはる(享廟の享祀)
実施日 11月12日 6組5番 氏名 上村翔

問1 詩の形式を答えよ。 四言古詩 ↑詩経は四言古詩 ↓入門 P60

問2 古詩では途中で韻を変える「換韻」ということが行われる。前の詩で韻を踏んでいる字を○で囲め。
二子 仕まてて、一ま子の中て 偶致句目、(七言絶句) 二句目も

問3 『詩経』では、自然の事物を歌うことで人事にかかわることを想起させる隱喩法(興)が用いられる。この詩の桃の若木とはいつたい何の隱喩か。
※人事 人の名をみすべし

問4 ア「灼灼其華」イ「有實其実」ウ「其葉蓁蓁」はそれぞれどのような人事を暗示しているか。

ア 美しい、イ 魅力 ウ 元気な様子
若い女 別紙参照
↓ウラを見よ、
(子だくさん、子供が家々)
洗めるし、毛はは
道徳的に洗っている

【現代語訳】
桃の木は若々しくつややかに 美しく咲き誇るその花
桃の木のように美しい この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやていくことだろう
桃の木は若々しくつややかに たわわに大きな実をつけた
桃の木のように美しい この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやていくことだろう
桃の木は若々しくつややかに 盛んに生い茂ったその葉
(桃の木のように美しい) この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやていくことだろう

古代中国では 時に大事

華

刑部シン

見た目美しい

葉

精神の成熟
元氣、健やか

子だくさん

子孫繁栄

「ドンドン広がっていく」等

こゝも読める

毛傳のように道徳的にも読める

（別紙「小序」参照）

朱子「もつと孝道に読める」

「集傳」

結婚を寿ぐ歌

こゝは祝ぐ

もうこう
毛言る
もうちやう
毛甚

毛伝

鄭箋云

訓詁の字句の解釈（特に儒学教典）

焚者坑儒で厚典をばさる。毛詩卷第一 周南 繇斯桃夭

シテ之ニ事へ、閨門治リ、君子ヲシテ福ヲ全クセシムトナリ。朱子ハ序ノ説ヲ取リシモ、此詩ヲ衆妾自ラ言フト爲セルニ於テ少シク異ナリ。

毛傳此篇ニ於テ其體ヲ言ハズト雖、蓋シ以テ繇スノ妬忌セザルヲ以テ、后妃ノ妬忌セズ、衆妾皆進御ヲ得ルヲ與シテ、后妃ノ子孫ノ衆多ナルヲ美スト爲セリ。朱子ハ比ト爲セリ、比トハ他物ヲ以テ此物ニ比スルナリ、即チ繇斯ノ妬忌セズシテ子孫多キヲ以テ、后妃ノ妬忌セズシテ子孫多キニ比スト爲セリ。

毛傳、集傳共ニ興ト爲ス、即チ桃ノ天トシテ華、實又ハ葉ノ盛ナルヲ以テ、女子ノ年盛ニシテ美色アリ、又婦人時ヲ以テ人ニ嫁スルヲ興ズルナリ、但毛ハ晉卿ノ正時ヲ秋冬ト爲スヲ以テ、桃ハ單ニ假リ來リテ婦人ノ年盛、美色等ニ譬フルニミ、鄭玄ハ仲春ヲ以テ晉卿ノ正時ト爲ス、故ニ桃ハ晉卿ノ時ニ於ケル實際ノ景物ニシテ、又以テ女子ノ年盛美色等ニ譬フト爲ス、朱子亦鄭説ニ同シ。

毛傳蓋シテ興ト爲ス、朱子ハ明ニ興ト言ヘリ、野人ノ免ヲ取ルノ宜ヲ作ラントシテ、自ラ其杙ヲ櫟シニ蕭敬ナルヲ

也。荒奄也。將猶扶助也。○南有樛木。葛藟荒之。樂只君子。福履成之。
就也。○興也。繁旋成就也。

樛木三章。章四句。

繇斯。后妃子孫衆多也。言若繇斯。不妬忌。則子孫衆多也。

○繇斯。羽。誥誥兮。

如。是。則。宜。爾。子。孫。振。振。兮。

振。音。真。○比也。繇斯。蝗。屬。長。而。青。長。角。長。股。能。以。股。相。切。作。聲。一。生。九。十。九。子。誥。誥。和。集。貌。爾。指。繇。斯。也。振。振。盛。貌。○比者。以。彼。物。比。此。物。也。后。妃。不。妬。忌。而。子。孫。衆。多。故。衆。妾。以。繇。斯。之。羣。處。和。集。而。子。孫。衆。多。比。之。言。其。有。是。德。而。宜。有。是。福。也。後。凡。言。比。者。放。此。

○繇斯。羽。薨。薨。兮。宜。爾。子。孫。繩。繩。兮。

比也。薨。薨。羣。飛。聲。繩。繩。不。絕。貌。○繇斯。羽。指。指。兮。宜。爾。子。孫。蟄。蟄。兮。

音。緝。○比也。緝。緝。會。聚。也。蟄。蟄。和。集。也。蟄。蟄。亦。多。意。

繇斯三章。章四句。

桃夭。后妃之所致也。不妬忌。則男女以正。婚姻以時。國無

桃。天。后。妃。之。所。致。也。不。妬。忌。則。男。女。以。正。婚。姻。以。時。國。無。

毛傳興也。

訓詁

桃は若くは女の

若くは元気が盛ん

嫁

繇民也。

老無妻曰繇。

桃之天天。灼灼其華。

之盛也。興也。桃有華之盛者。天天其少壯也。灼灼華之盛也。與者。喻時。婦人皆得。以年盛時行也。之子于歸。宜其室家。

女年時俱當。天音腰。華音花。○興也。桃木名。華紅實。可食。天少好之貌。灼灼華之盛也。木少則華盛。之子是子也。此指嫁者而言也。婦人謂嫁曰歸。周禮仲春。令會男女。然則桃之有華。正婚姻之時也。宜者和順之意。室謂夫婦所居。家謂一門之內。○文王之化。自家而國。男女以正。婚姻以時。故詩人因所見。以起興。而歎其女子之賢。知其必有以宜其室家也。

其實。之子于歸。宜其家室。

有華色。又有婦德。○興也。素素葉之盛也。家人猶室家也。○興也。素素葉之盛也。家人猶室家也。

其家人。○桃之天天。其葉素素。

色有德。形體至盛也。之子于歸。宜其家人。

○興也。素素葉之盛也。家人猶室家也。

桃夭三章。章四句。

免。置。后。妃。之。化。也。關。雎。之。化。行。則。莫。不。好。德。賢。人。衆。多。也。

肅。肅。免。置。櫟。之。丁。丁。

肅。肅。敬也。免。置。免。置。也。丁。丁。櫟。杙。聲。也。

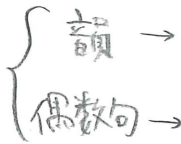
武。夫。公。侯。干。城。

人。賢。者。也。有。武。力。可。任。爲。將。帥。之。德。諸。侯。可。任。以。國。守。扞。城。其。民。

周の初めから春秋時代にかけての詩、三百五篇を集めたもので、孔子が編纂したと言われている。司馬遷の『史記』によれば孔子は学ぶべき古典として『易』『書』『礼』『春秋』を編纂したが、それとともに、それまで採詩の官が諸国を廻り集めた三千余篇の詩の中から三百五篇を選び、弦に合わせて歌えるようにしたという。これが今日のいわゆる『詩経』である。すなわち『詩経』は中国最古の詩集であつて、それは黄河流域を中心として生まれた北方の文学なのである。

桃夭 無名氏

桃³之³夭³夭³ 灼³灼³其³華³
之³子³于³歸³ 宜³其³室³家³
桃³之³夭³夭³ 有³其³實³其³葉³蓁³蓁³
之³子³于³歸³ 宜³其³家³室³
桃³之³夭³夭³ 其³葉³蓁³蓁³ 其³家³室³實³
之³子³于³歸³ 宜³其³家³室³人³蓁³蓁³



華実葉

問1 詩の形式を答えよ。

四言古詩

問2 古詩では途中で韻を変える「換韻」ということが行われる。前の詩で韻を踏んでいる字を○で囲め。

問3 『詩経』では、自然の事物を歌うことで人事にかかわることを想起させる隱喩法(「興」)が用いられる。この詩の桃の若木とはいったい何の隱喩か。

若い娘

問4 ア「灼灼其華」イ「有實其実」ウ「其葉蓁蓁」はそれぞれどのような人事を暗示しているか。
ア 美しい 女 子 嫁 家
イ 実 子 孫 繁栄
ウ 葉が長い 子孫が長い
若い娘の結婚を青い詩に

若い娘の結婚を青い詩に

【現代語訳】

桃の木は若々しくつややかに 美しく咲き誇るその花

(桃の木のように美しい)この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやっていくことだろう

桃の木は若々しくつややかに たわわに大きな実をつけた

(桃の木のように美しい)この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやっていくことだろう

桃の木は若々しくつややかに 盛んに生い茂つたその葉

(桃の木のように美しい)この娘が嫁に行けば 嫁ぎ先とうまくやっていくことだろう

詩経の中の分類

風 各回の民謡
雅 宮廷音楽
頌 祖先を祀る
興 自然し人事 (隱喩) ↑ 義
賦 直叙 (そのまゝ)
比 直喩

配付日 10月31日

生徒 X

